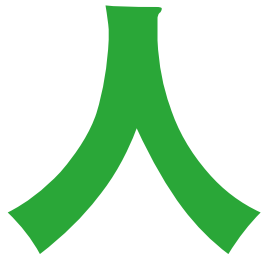




基本手段 5

まちづくりに興味と関心
を持ち、行動する人を育
てる仕組みを作ります



まちづくりの柱

5－1 人材育成・人づくり・人材の確保

●施策

5－1－1 地域の魅力を高める人材育成

【現状と課題】

まちを活性化し、発展させていくためには、人材を育成することが不可欠です。人を育てなければ、まちは衰退します。

少子高齢化の進行、人口の減少、基幹産業である農業や観光の厳しい現状。本町を取り巻く状況は、たいへん厳しいものがあります。

本町には、森林、水、湖、川、景観、温泉、文化などの恵まれた資源があります。

この厳しい状況を乗り越え、これらの恵まれた資源を宝として輝かせていくのは、人の力です。

町民みんなが、現時点をいかに乗り越えるかと同時に、次世代の人材を育成することを考える必要があります。

魅力ある地域づくりのために、これからは、様々な年代、様々な組織や産業におけるまち全体の人材育成の戦略と、計画的に人材を育て、その人材が活躍できる場の確保が求められています。

町民の声

まちづくり町民会議

「元気な女性がたくさんいる」「人づくりは地域づくりの基礎」「町として人を育むビジョンが必要」「元気で発信力のある人が必要」「町の外に出た子どもがまた戻ってきて活躍してほしい」

町民アンケート

「子供に町を理解させることで親世代にも広がる。子供が大人になれば町に利益をもたらす」「弟子屈町を誇りに思う若者を育て、起業するガッツを育てる」

団体アンケート

「人材教育を怠っていたのではないか」「人材教育が最も求められている」

中学生アンケート

「不親切非常識な人がいるところが課題」

ふるさと会アンケート

「中高生から将来の希望、考え方を聞き参考にする」「おもてなしの心を持った温かい接遇ができる人材を」

地域懇談会

「町民が町の良さを理解していない」



地域懇談会



地域懇談会



まちづくりの柱 5 - 1

人材育成・人づくり・人材の確保

●施策 5 - 1 - 1 地域の魅力を高める人材育成

施策の目的・方針

町民全体が、「地域の発展は人づくりから」という共通認識を強く持ち、まちの未来を担う若い人材の育成に力を注ぐとともに、老若問わず地域の魅力を発信できる人材づくりを推進します。

また、これからのまちづくりには町民と行政が「魅力ある地域づくり」という目的を共有し、互いに協力して助けあう「協働」の理念が不可欠という認識に立ち、「協働」に対する町民の理解を深め、「協働」の視点を持った人材の育成に努めます。



施策の成果指標

成果指標	説明	単位	現状値	中間目標 (H28)	目標 (H33)
人材育成の推進	町民満足度調査	点	38		

施策メニュー

協働方針の内容は次項参照

施策の主な内容		協働方針	重点プロジェクト
1.地域づくりの担い手の育成	①多くの人に「協働による地域づくり」への理解を深めてもらうための取組を行います。特にその取組を進めるに当たり先導的立場となる役場職員の意識を高めるため、職場内研修や地域担当制の導入、人材育成を束ねる専門部署の設置などの取組を推進します。		● プロジェクト2
	②地域活動やボランティア活動などを体験することにより、「協働による地域づくり」への興味や関心、親しみを高めてもらう取組を行います。		
	③地域の課題の発見・解決に必要なノウハウを身につけるための取組を行います。また、民間による人材育成組織の構築も視野に入れます。役場職員については、協働の取組に必要なコーディネート能力の養成を行います。		
	④「協働による地域づくり」を円滑に進めていくために、参加者を牽引するリーダーとなる人材を育成します。		

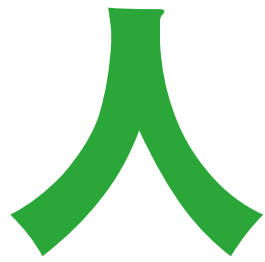
施策の主な内容		協働方針	重点プロジェクト
2. 弟子屈ガイドの育成	① 弟子屈のまちを町外の親類や知人等に無理なく紹介・案内できる程度の基本的ガイド知識から観光客向けの専門的ガイド知識まで、老若男女を問わず「弟子屈を語ることができる人材」を増やし地域の活性化につなげる試みを展開します。		
	② 町民自らが「地域を知る」ことを目的とした「ふるさと講座」等の実施、段階を踏んでガイド養成につなげる仕組みを確立することと併せ、ガイド人材を活かせる事業の創出を図ります。		
3. てしかが愛を育む取り組み	① 児童生徒を中心に授業と連動してふるさと教育を強化し、幼少のころからまちのことを考える子供を育てる取り組みをします。		
	② てしかがのことを良く知っているてしかが博士を町民の中から育成し、地域で活躍してもらいます。		
	③ 各団体等と連動して、てしかが愛を育むイベントや認証制度に取り組みます。		
	④ 町内の特色を戦略的に整理して景勝地や特産品のPRを行い、町外のてしかがファンが一人でも増えるような活動に取り組みます。		

主な協働方針の取組(特に進めていく協働)



町民と行政がこれまで以上に協力しながら進める協働

- できるだけ多くの町民が弟子屈を紹介できる知識・能力を身に付けます。
- 学校におけるふるさと教育と連動して、家庭生活や地域活動の中でも大人が子どもにまちのこと教える機会を増やします。
- 町民は「協働による地域づくり」に関心を持ち、行政はその環境づくりを進めます。
- 企業・団体・役場等は人材の育成に積極的に取り組みます。
- 町民は、「ふるさと講座」や「地域を知るための事業」に積極的に参加します。



まちづくりの柱

5－2 まちづくりを支えるネットワークの 形成・交流活動支援

●施策

5－2－1 人材を活かす

5－2－2 活発な地域間交流

【現状と課題】

町内、圏域・広域、国内・海外など、まちづくりを支えるネットワークはさまざまなレベルがあり、人材育成と密接に関連してきます。

観光と農業で栄えてきた本町は、さまざまな業種の人々が多彩な才能と能力をもって各分野で活躍し、近年は多方面から移住される方も増え、多種・多様な人材が町の中にあふれています。

町内レベルでは、自治会や各種団体、サークルのほかボランティア活動などは盛んでありますが、この反面、地域間や各団体間の交流は比較的希薄な状況にあります。

このため、これからのまちづくりや人材育成に向けても人のつながりは重要であり、ネットワークの形成に向けた取り組みが求められています。

周辺市町村とは、それぞれの地域の強みや特徴を活かした地域産業の連携、広域観光プロモーションなどによる活性化など、自治体及び民間での人的交流を進め、さまざまな交流活動を展開し、地域全体の活性化へ取り組んでいくことが求められています。

姉妹都市や海外等との交流は、教育文化面での交流、特産品、地場産品等の相互販売などの経済交流、国際社会や異文化への理解などに加え、外からみた弟子屈町を知ることも重要なことであり、人材育成の観点からも、地域間の交流活動への支援が求められています。

また、新たな視点からまちを見つめるためには、町外からの交流希望者を受け入れる体制を整え、積極的に情報発信することが必要です。

町民の声

まちづくり町民会議

「人と人とのコミュニケーションを多くする」「山村留学生の受入を」

町民アンケート

「高齢者の知識や経験を活かした社会参加、ボランティアの促進」

団体アンケート

「世代、異業種間交流の取り組みを」「元々住んでいた人と移住してきた人との連携」

中学生アンケート

「町民同士の交流を多くする」

高校生ワークショップ

「出会いが少ない」

ふるさと会アンケート

「若い人にまちづくりのグループを立ち上げさせて意見提案と実践を」「近隣の自治体を巻き込んだ新計画も考えるべき」

地域懇談会

「移住された方など人材は豊富」「完全移住者のみでなく季節移住も呼び込む施策を」



地域懇談会



地域懇談会



まちづくりの柱 5 - 2

まちづくりを支えるネットワークの形成・交流活動支援

●施策 5 - 2 - 1 人材を活かす

施策の目的・方針

人材育成に関する様々な取組の成果や、多種多様な才能を持つ人材の活用が十分まちづくりに活かされるよう、仕組みを工夫して、参加の機会や交流の場を拡充します。

施策の成果指標

成果指標	説明	単位	現状値	中間目標 (H28)	目標 (H33)
町民同士や団体同士の連携や協力	町民満足度調査	点	42		
地域づくり活動支援事業補助金交付件数	企画財政課調べ	件	3	5	5
人材・団体登録バンクの設置	—	—	—	設置	運用





まちづくり町民会議



摩周ウインターフェスタ

施策メニュー

協働方針の内容
は次項参照

施策の主な内容		協働方針	重点 プロジェクト
1.人材が活躍できる仕組みづくり	①人材に関する様々な情報を一本化して、町民等の相談に対応できる窓口の設置を検討します(行政若しくは中間支援組織による窓口)。		● プロジェクト2
	②特殊な技術や専門ノウハウを持つ人材・団体・企業などを登録バンク化し、町民や地域のニーズに応じて紹介する仕組みを検討します。		
	③地域づくり活動支援補助金制度を町民公募型とするなど、多様な人材が自主的に活躍できる機会の創出を図ります。		
2.人・団体・地域のネットワーク形成	①地域や活動分野などを超えてネットワークの輪を広げるため、地域づくりを行う団体の交流や、全国規模の団体登録システムへの参加などを促進します。		● プロジェクト2
	②団体活動の情報を集約・データベース化し、人材の紹介や情報の交流が行える仕組みを構築します。		
	③ネットワーク化により都市部などの人材からも地域づくりへの協力を募集し、地域間交流や弟子屈への定住につなげる仕組みを構築します。		
	④町民同士、町民と行政、地域間、団体間など様々な立場の人が地域づくり等について話し合ったりする交流の場をつくるため、自治会など既存の組織を活用したり、新たに協議会を立ち上げるなどの取組を検討します。		

主な協働方針の取組(特に進めていく協働)



町民と行政がこれまで以上に協力しながら進める協働

- 行政は、自主的にまちづくり活動を行う人・団体の活動支援や情報提供を行います。
- 行政は、地域や活動分野を超えてまちづくりに関するネットワークの輪を広げる取り組みを支援します。
- 町民・事業者・団体・行政が連携し、NPOなどによる人材バンク組織の構築を目指します。
- 町内のあらゆる立場の人が地域づくりについて話し合ったりする交流活動が活発化することを目指します。
- 行政は、町民や団体の協力を得ながら団体情報や人材情報のデータベース化に取り組みます。
- 行政は町外からも地域づくりに関する人材を募り、町民や団体等は人脈等の情報提供などに協力します。



まちづくりの柱 5 - 2

まちづくりを支えるネットワークの形成・交流活動支援

●施策 5 - 2 - 2 活発な地域間交流

施策の目的・方針

地域経済の活性化と、国際化時代・交流化時代に対応できる人材の育成を図るため、様々な地域・分野における交流活動を推進します。

施策の成果指標

成果指標	説明	単位	現状値	中間目標 (H28)	目標 (H33)
観光等で弟子屈を訪れる外国人の延べ宿泊者数	観光商工課調べ	人	8,384	➡	➡
姉妹都市交流や多様な交流機会の充実	町民満足度調査	点	48	➡	➡
人口の社会増減数 過去5年間平均 (転入者数-転出者数)	住民基本台帳調べ	人	△78	➡	➡

基本手段 5






日置市との相互交流



札幌弟子屈会

施策メニュー

協働方針の内容
は次項参照

施策の主な内容		協働方針	重点プロジェクト
1.国際交流活動の推進	①観光を中心とした経済交流、文化交流を通じてグローバル化時代に対応できる人材の育成を図るとともに、町内を訪れる外国人や在住外国人の受け入れ体制の充実に努めます。		
	②中国3都市(河南省商丘市、山東省泗水県並びに濱州市濱城区)との友好交流については、弟子屈町日中友好協会を中心とした相互の交流を継続支援していきます。		
2.姉妹都市等地域間交流の推進	①姉妹都市である鹿児島県日置市との交流については、児童生徒の相互交流を継続して推進していくとともに、観光・農業といった経済交流による相互の発展を図ります。また、町の歴史上において縁のある岩手県久慈市、三重県松阪市との交流についても更なる友好関係を築き、相互の発展に寄与する人的交流・経済交流を図っていきます。		
	②首都圏の本町出身者を中心とした弟子屈ふる里会や札幌弟子屈会との交流については継続して親睦を深め、まちの発展につながる協力関係を築いていきます。		
3.交流人口の拡大と定住の推進	①人口減少対策としての移住促進に取り組みます。		◆ プロジェクト3
	②地域の担い手として活躍できる世代の定住化に取り組みます。		

主な協働方針の取組(特に進めていく協働)



町民と行政がこれまで以上に協力しながら進める協働

- 観光関連の事業者・団体が中心となり、外国人旅行客に対応できるガイドの育成や受入体制の整備を行います。
- 姉妹都市や友好都市との経済交流(農業・観光)を推進するために、農業や観光分野の事業所・団体と行政の連携を強化します。
- 移住・定住を促進するための取組について、町民や団体・事業所と行政の協働体制を一層強化します。

